

診療放射線科通信

『胃がん検診のすすめ』 —『胃がん』と『検査』①—

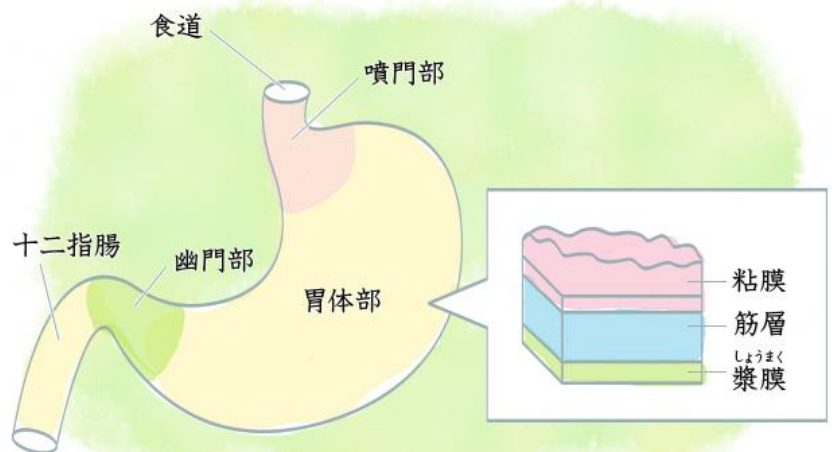
最初に

みなさん胃がん検診の受診率はどのくらいだと思いますか？2022年のデータによると【男性47.5%/女性36.5%】の割合で検診を受けています。本来はもっと多くの方々に受けてもらいたい検査です。私は毎年バリウムを飲んで胃がん検診を受けています。この記事を読んで少しでも近隣市町村の受診率が増えたらと思います。すでに受けている人は必要性を改めて認識していただけたら幸いです。

胃はどんな臓器

入口は食道と繋がっていて、出口は十二指腸と繋がっている袋状の臓器です。胃は筋肉でできており、主な働きは食べ物の消化・吸収と殺菌です。

胃の壁は、内側から粘膜（粘膜・粘膜筋板・粘膜下層）、筋層、しょうまく（漿膜下層・漿膜）大きく分けて3層構造をしています。



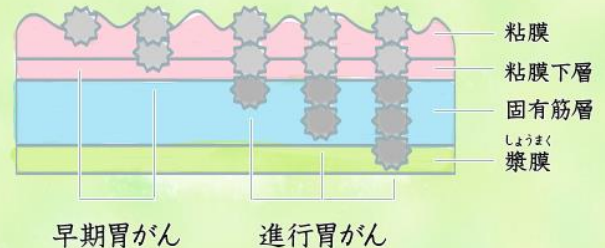
診療放射線科通信

『胃がん検診のすすめ』 —『胃がん』と『検査』②—

胃がんはこんな病気

胃がんは最も内側の粘膜の細胞が無秩序に増えていくことで発生します。進行すると粘膜⇒筋層⇒漿膜と胃の内側から外側へとがんが広がっていきます。

早期の段階では自覚症状は、ほとんどありません。早期発見するには検診を受けて発見する必要があります。



胃がんの原因は？

胃の粘膜細胞が何かしらの刺激や原因でがん細胞に変化します。リスク要因は【喫煙】【多量の塩分】【多量の飲酒】【ヘリコバクターピロリ菌の感染】と言われています。

※ヘリコバクターピロリ菌に胃が感染すると、胃がんになる可能性が高くなると報告されています。50代以上の感染率は7割程度です。



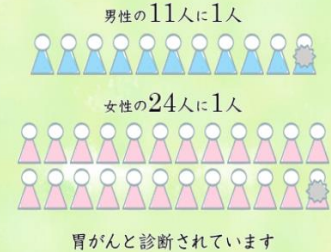
Helicobacter pylori

診療放射線科通信

『胃がん検診のすすめ』 — 『胃がん』と『検査』 ③ —

胃がんになる可能性は？

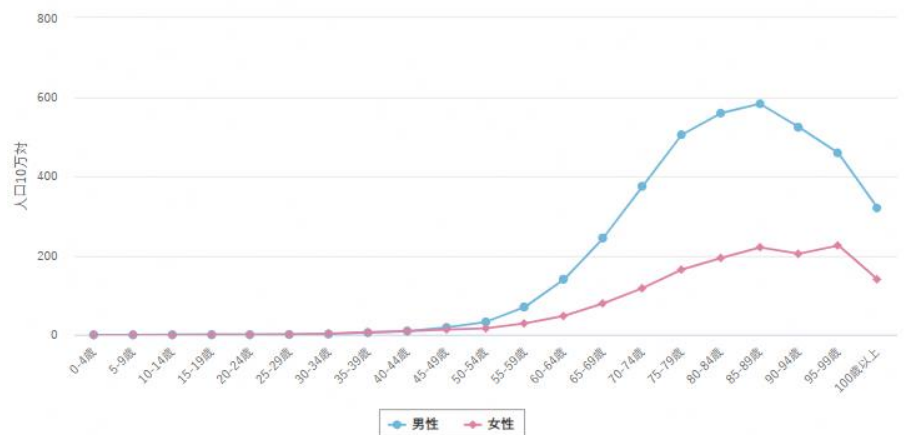
一生のうちで胃がんになる割合は、男性11人に1人、女性24人に1人と言われています。



胃がんはどの年齢層でおおいのか

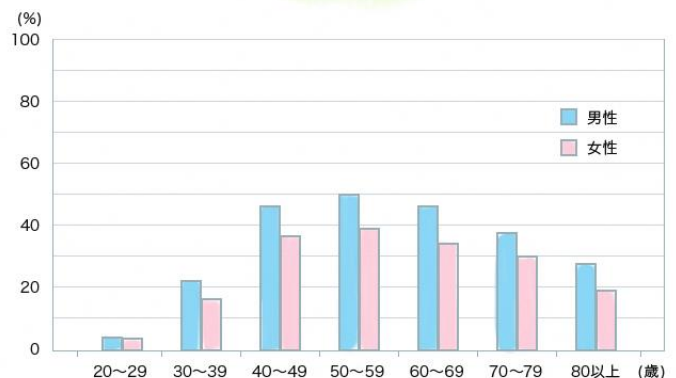
胃がんになるのは年齢とともに上昇する傾向にあります。特に50歳を過ぎてから増加し始め、高齢になるほど高くなります。粘膜細胞にダメージが蓄積されるためと考えられています。

年齢階級別罹患率
【胃 2021年】



胃がん検診の受診率は低い

胃がん検診の受診率は、40～69歳で見ると冒頭でお伝えしたように【男性47.5%/女性36.5%】です。2年に1回検診を受けて頂くと早期発見が可能と言われています。



診療放射線科通信

『胃がん検診のすすめ』

—『胃がん』と『検査』④—

胃がん検診の検査は2つ

- ①胃内視鏡検査** 一般的に胃カメラといわれている検査です。口または鼻から入れたチューブ状のカメラで直接胃の粘膜を観察して病気を見つけます。検査枠が少ないので早めの予約をオススメします。



- ②胃部X線検査** バリウムを飲んで胃の粘膜状態がわかるX線写真を撮影する検査です。ゲップを我慢したり、検査台で回転したりと比較的体力が必要な検査です。



最後に

がん検診は自覚症状が無い時点で行われることから、病気が進行していない状態で発見することが出来ます。早期発見！早期治療！の為に、みなさんにがん検診を受けて頂けたらとおもいます。

予約方法

お電話または来院による予約制となります。

菊川市立総合病院 健診センター ☎0537-36-5585